

8・5青年部全支部交流会へ！

スト権の100%確立へむけ全支部は青年部につづけ



87. 7. 31

No. 2616

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二二二七二〇七

一人ひとりの闘いが情勢を開く時

動労千葉は、七月十八日の臨時委員会で、強制出向にはストライキを基軸に総反撃に起つことを決定した。これをうけて青年部は、七月二六日、青年部三役会議を開催し、当面、スト権一〇〇%確立の達成をちとるために全力で闘うことを確認し、来たる八月五日に「青年部全支部交流会」を津田沼において開催することを決定した。全支部青年部は、交流会成功へ全力で取り組もう。

「悪夢の再現」に恐れる当局

今日、なぜ当局による強権的労務支配が行われているのか？

それは、「分割・民営化」の狙いであった国労、動労千葉の一掃、国鉄労働運動の解体に失敗したこと。ここがすべての出発点になっているのだ。

マル生の時、十万人まで鉄労を増やしたにもかかわらず、最終的に当局は敗北した。この「悪夢の再現」を恐れるがゆえに当局は、必死になって組合掲示板からパッチにいたるあらゆる組合活動を全面否定してきているのだ。

他方、「4・1」からたった四カ月で「分解」した鉄道労連の危機は「分割・民営化」の破綻性を鮮明にし、「悪夢の再現」を当局にイヤというほどつきつけているのだ。

出向攻撃は闘えば勝てる 問題は闘うかどうかだ

だから攻撃も熾烈になり、国労、動労千葉への分断攻撃が撃化しているのだ。そして、この攻撃の焦点が強制出向なのだ。東日本では三九〇人が出向に出され、うち国労が二七四人と七割を占めている。明らかに国労の役員・活動家の狙いうちである。

そもそも定員割れで大学卒業の新採や

清算事業団からの要員募集をしなければならぬのに、なぜ強制的に出向に出さなければならぬのだ。絶対におかしいのだ。

しかし、出向攻撃は、闘えば勝てることとがこの間の労働省の見解や地方労働委員会の勧告、判例を見る中で明らかになってきた。問題は出向攻撃と闘うかどうかなのである。その意味でスト権を確立するかどうか一切がかかっているのだ。

スト権一〇〇%確立へ

スト権一票投票の貫徹とスト権の確立にむけ、青年部はその突破口として八月五日の「青年部全支部交流会」を圧倒的に成功させ、動労千葉の最先頭で反撃に立たなければならない。

8・5津田沼支部組合事務所へ！

8・5青年部

全支部交流会

とき 8月5日(水)

18時集合

ところ 津田沼支部

組合事務所